



各 位

2022年8月4日

会 社 名 **株式会社 キッツ**  
 代表者名 代表取締役社長  
 河野 誠  
 コード番号 6498(東証プライム)  
 問合せ先 経理財務センター長  
 牛丸 誠  
 Tel (043) 299 - 0114

**2022年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異、  
 通期連結業績予想の修正、剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正に関するお知らせ**

2022年2月10日に公表しました2022年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と本日公表の実績値に下記の通り差異が生じたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2022年12月期通期連結業績予想の修正並びに2022年6月30日を基準日とする剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正につきまして、下記の通り決定いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異について

(1) 2022年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異

(2022年1月1日～2022年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	69,400	4,280	4,145	2,700	30.12
実績値 (B)	76,932	5,599	6,133	4,147	46.27
増減額 (B - A)	7,532	1,319	1,988	1,447	
増減率 (%)	10.9	30.8	48.0	53.6	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年12月期第2四半期)	63,117	3,902	3,958	2,063	23.01

(2) 差異の理由

売上高につきましては、主力のバルブ事業において、米州向け及びアセアン向けが増加したほか、価格改定効果や急激な円安進行に伴う為替の影響もあり増収となりました。また、伸銅品事業において、原材料相場の上昇に伴う販売価格の上昇及び販売量の増加により増収となった結果、前回発表予想を上回る結果となりました。

損益面につきましても、バルブ事業において、販売量の増加に伴う増収による増益や一部販管費の発生予定が下期にずれ込んだこと等により、前回発表予想を上回る結果となりました。

## 2. 2022年12月期通期連結業績予想の修正について

### (1) 2022年12月期通期連結業績予想の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	143,000	10,000	9,700	6,300	70.28
今回修正予想 (B)	158,000	11,300	11,750	7,700	85.87
増減額 (B - A)	15,000	1,300	2,050	1,400	
増減率 (%)	10.5	13.0	21.1	22.2	
(ご参考) 前期実績 (2021年12月期)	135,790	8,990	8,975	4,954	55.26

### (2) 修正の理由

売上高につきましては、主力のバルブ事業において、当第2四半期連結累計期間が増収になったほか、価格改定効果や円安進行に伴う為替の影響により、前回発表予想を上回る見込みであります。

損益面につきましては、バルブ事業において、当第2四半期連結累計期間が増益になったことに加え、通期売上高予想を上方修正したことに伴う増収効果により、前回発表予想を上回る見込みであることから、通期連結業績予想を上記の通り修正するものです。

### 3. 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正について

#### （1）剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	直近の配当予想 (2022年2月10日公表)	前期実績 (2021年12月期中間配当)
基準日	2022年6月30日	同左	2021年6月30日
1株当たり配当金	15円00銭	11円00銭	9円00銭
配当金総額	1,351百万円	—	811百万円
効力発生日	2022年9月16日	—	2021年9月17日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

#### （2）配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (2022年2月10日発表)	11円00銭	14円00銭	25円00銭
今回修正予想		16円00銭	31円00銭
当期実績	15円00銭		
(ご参考)前期実績 (2021年12月期)	9円00銭	11円00銭	20円00銭

#### （3）剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想修正の理由

当社は、剰余金の配当の決定にあたり、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、当社の持続的な成長と企業価値の向上のための投資や様々なリスクに備えるための財務健全性とのバランスを考慮したうえで、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。

また、中長期的には、連結配当性向は親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準と考えており、これを目途に毎期の配当額を決定することとし、かつ安定的な配当の継続を目指しております。

上記方針等を勘案し、中間配当につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績を踏まえて、本日開催の当社取締役会において、直近の配当予想から4円増配し、1株当たり15円とすることを決議いたしました。また、期末配当予想につきましては、通期連結業績予想の修正に伴い、直近の配当予想から2円増配し、1株当たり16円に修正いたしました。これにより年間配当金は、1株当たり31円となり、連結配当性向は36.1%となる予定であります。

(注) 上記の配当予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、今後様々な要因によって当該予想とは異なる結果となる可能性があります。

以上